

たつの市定例記者会見資料	
発表年月日	令和5年9月4日(月)
担当課	教育事業部歴史文化財課
電話	0791-75-5450

報道機関各位

埋蔵文化財センター企画展  
「激動の時代を生きた人々―黍田原遺跡の弥生人―」を開催

弥生時代の播磨地域は、中期末（今から約2,000年前）に大きな転換期を迎えます。長く続いた中部瀬戸内海沿岸地域（現在の岡山県、香川県）との結びつきを排し、畿内（現在の大阪府・奈良県）と交流を持つようになるのです。また、多くの遺跡から人々の姿が消え、そのかわりに山の上などそれまで人が住まなかった場所に集落が新たに出現します。これらのことから、主要な交流先の変更だけではなく、地域社会を揺るがす大変動が起きたと考えられています。

本展示では、たつの市内におけるこの時期の代表的な遺跡である黍田原遺跡を中心に据え、激動の時代に何が起きたのかを明らかにします。

記

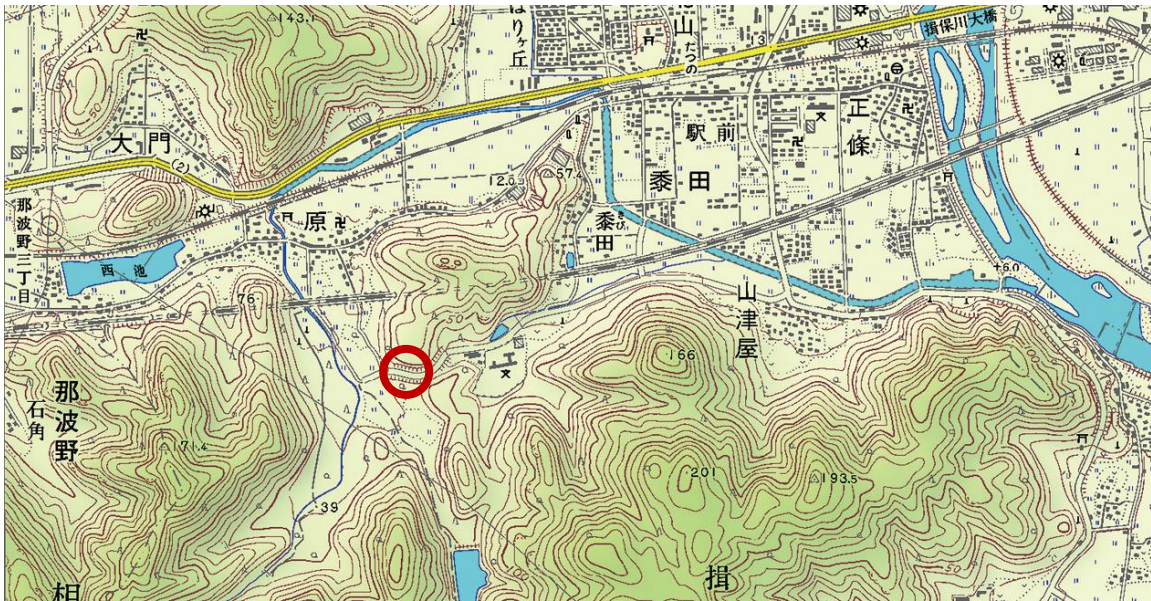
- 企画展名称 「激動の時代を生きた人々―黍田原遺跡の弥生人―」
- 開催場所 たつの市立埋蔵文化財センター 特別展示室
- 開催期間 令和5年9月13日(水)～11月13日(月)
- 展示内容 黍田原遺跡出土品、新宮宮内遺跡出土品、宮ヶ谷遺跡（多可町）出土絵画土器など 約80点  
※宮ヶ谷遺跡出土絵画土器は、多可町外では初展示
- 観覧料 無料
- 主催 たつの市教育委員会
- 関連行事 記念講演会  
「ヒト、モノは東から―激動の時代の播磨―」  
講師：岩井顕彦（歴史文化財課係長兼学芸員）  
日時：9月24日(日) 14:00～15:30  
※定員：50名（当日受付順）

# 黍田原遺跡の概要

## 1 遺跡の位置

たつの市揖保川町黍田と原の両地区、現在の神戸小学校の北側に位置する山から南へ伸びた斜面上に広がっている。1990年代に道路開発に伴って発掘調査が行われた。

弥生時代の遺跡は通常、米作りに適した平野部に立地するが、黍田原遺跡は山間の見通しの良くない場所に営まれている。



## 2 遺跡の概要

弥生時代中期末（今から約 2,000 年前）のごく短期間（2 世代程度 = 50 年弱）だけ営まれる。縦穴建物 5 棟、斜面に作られた建物の一種（発掘調査報告書では段状遺構と命名）が 13 基確認されている。大量の土器片や石器類が出土した。

## 3 遺跡の特徴

眺望の良くない立地で、閉鎖的なムラのようなイメージを抱きがちだが、出土した石器の石材の分析から、現在の奈良県と大阪府、徳島県、香川県など幅広い地域と交流していたことが判明している。

米作りの道具以外に漁で使う重りや木材加工に使用する斧なども出土しており、様々な生業を組み合わせ暮らしていたと考えられる。

なお、播磨では、中期末の遺跡の数が少なく、貴重な事例である。